



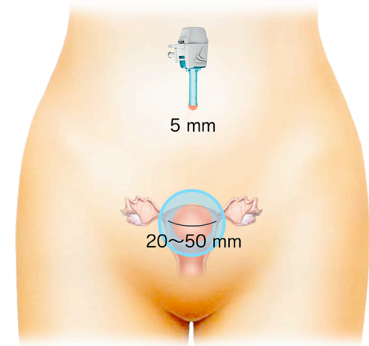
## 腹腔鏡補助下卵巣奇形腫摘出術について

### ● 手術の方法

- 全身麻酔下に卵巣の奇形腫だけを摘出する手術です。正常の卵巣組織はすべて温存します。

### ● 腹腔鏡補助下子宮付属器腫瘍摘出術 (LAC)

- 臍からカメラを挿入し、下腹部に3~4cmの小切開を加え、子宮の位置や角度を動かすために子宮マニピュレーターも装着します。カメラで確認しながら嚢腫のある卵巣を切開部位に移動させます。



- 嚢腫を穿刺して内容液（液性脂肪）を吸引して縮小した後、卵巣を腹壁上に引き出し、奇形腫を摘出します。こうすることで、腫瘍内の固形成分（毛髪、固形脂肪、軟部組織など）を腹腔内に散布させずに完全に摘出することができます。
- 正常の卵巣組織を吸収糸で縫合して形成します。卵巣を腹腔内に戻し、腹腔内を洗浄します。骨盤内に異常がないことを確認し、形成した卵巣に癒着防止シートを貼付します。
- 皮膚の切開創は吸収糸で縫合し、表面は医療用ボンドで閉鎖します。
- 手術時間は平均45分（25~100分）です。

### ● 手術中に起こり得る予定外の事態（合併症を除く）

- 性交経験がなく腔が狭い場合、子宮マニピュレータの着脱によって腔壁裂傷を生じることがあります。裂傷は縫合します。
- 過去に受けた手術や腹膜炎などによって腹腔内に高度の癒着があり、内視鏡の視野を確保できない場合は中止することがあります。
- 手術中に卵管・卵巣の癒着や子宮内膜症が見つかった場合は、癒着剥離や内膜症病変の治療も追加します。側腹部に5mmの切開を追加することもあります。

### ● 術後に気をつけること

- 医療用ボンドは1週間程度で自然にはがれ落ちます。退院後は普段どおりにシャワーや入浴できますが、ボンドをこすらないようにしてください。
- 卵巣腫瘍は病理組織検査で診断が確定します。悪性だった場合は高次医療施設に紹介します。
- まれに卵巣奇形腫の再発を繰り返す方がいます。少なくとも1年に1回は検診を受けたほうが良いでしょう。